

活動名称「診療看護師 (NP) に対する実態調査研究」

山口 莉佳 (慶應義塾大学 看護医療学部 4 年)

1. 背景

大学の講義で診療看護師 (NP) の存在について知り、その後、Google 検索でざっと調べたが、米国では NP の役割や国民への貢献は明らかとなっている¹⁾ものの、日本ではその役割が定まっておらず、貢献も明確でなかった。日本において看護師でありながら、医師が行う診療行為の一部を担う職種²⁾は、どのように活動し、その役割を果たすのか、さらに、既に存在している、特定行為研修を修了した看護師³⁾や専門看護師 (CNS)⁴⁾のような看護師ではなく、診療看護師 (NP) として新たな役割が存在することで、周囲の医療スタッフや国民にどのような影響をもたらすのか疑問に思った。そこで、診療看護師 (NP) は、国民や医療現場に対してどのような存在意義があるか、現場での思いも含め探究したいと思った。

2. 目的

現時点における日本の診療看護師 (NP) の実践を観察し、その活動・ニーズを把握することで診療看護師 (NP) の役割を捉え、それにより、国民や医療スタッフへどのような貢献をもたらすのか、直面している課題は何か、診療看護師 (NP) の展望を検討することを目的とした。

3. 方法

日本 NP 教育大学院協議会の NP 資格認定試験に合格し、活動報告を公表しており、日本でクリティカルケア領域またはプライマリケア領域で看護実践し、この研究に同意した診療看護師 (NP) を対象としたケーススタディを実施した。本研究では急性期病院 (総合病院、専門病院)、診療所、訪問看護ステーション (首都圏、僻地) での実践を対象とした。各施設での事例を調査するため、合目的的に機縁法で抽出した。診療看護師 (NP) の実践を参与観察し、加えて診療看護師 (NP) がどのような思いや考えを持ちながら活動しているのかを知るために、インタビューガイドを用いた半構造化インタビューを行なった。参与観察は日勤帯の 1 日を通じて、インタビューは 30 分程度実施した。インタビューで得られたデータの逐語録を作成し、参与観察のフィールドノートと照らしながら、施設概要や研究参加者の背景、診療看護師 (NP) の活動内容、参与観察中に行われていたケア・活動・特定行為、周囲の患者と医療者からの認知、果たせる役割、抱えている課題等について、表にまとめた。さらに役割と貢献に関して、対象者が共通して述べた点を記述した。

4. 結果

首都圏、九州において、5 施設 5 名の協力を得ることができた。診療看護師 (NP) の活動として、プライマリ領域・クリティカル領域において、厚生労働省が定める特定行為の実践、手術助手とし

での活動、NP 外来での活動、周囲の医療スタッフとの協働、そしてニーズとして、周囲の医療スタッフからのニーズ、地域の人的医療資源としてのニーズ、医療安全を確保することへのニーズを把握することができた。また、対象者から述べられた共通の役割として【多職種連携の調整役を担う】【看護師の情報収集と観察力の向上を支援する役割を担う】が挙げられた。

5. 考察・結論～今後に向けて～

今回の参与観察・インタビューから、活動・ニーズとして、プライマリ領域からクリティカル領域において、厚生労働省が定める特定行為の実践、周囲の医療スタッフとの連携に対する活動、手術助手としての活動、NP 外来での活動、周囲の医療スタッフからのニーズ、地域の医療資源としてのニーズ、医療安全を確保することへのニーズを見出すことができた。これらより、診療看護師 (NP) の役割とその貢献、垣間見えた新しい職種としての課題、医療職が担う役割の不明瞭な境界線、診療看護師 (NP) の展望、の 4 つの視点から考察した。診療看護師 (NP) の役割は、多職種連携における調整役、医学知識と技術の活用、医療資源が不足する地域での実践と捉えた。その役割の結果、多職種間の円滑な連携への貢献、医療の質と安全性向上への貢献、人的な医療資源として地域医療へと貢献していると考察した。しかし、診療看護師 (NP) の役割は、現時点で存在する職種でさえも役割の境界線が不明瞭であることから、その区分を明示することは難しいことがわかった。加えて、診療看護師 (NP) は新たな職種であるため、活動の結果を示すエビデンスの量が十分でなく、客観的指標で有用性や安全性を十分に示すことができていない。診療看護師 (NP) の展望として、参与観察・インタビューから私自身で得た実感としては有用性があり、多くの点で医療に貢献していると考察したことから、国家資格化することで伝播していくことができれば良い資格であると考えるが、客観的な指標が十分でないことで、それを客観的に判断することができない。よって、診療看護師 (NP) の役割を示すには、今後も継続してエビデンスを集積し、それを踏まえて診療看護師 (NP) のあり方について吟味していく必要がある。

謝辞

この研究を行うにあたりご協力くださった、6 名の診療看護師 (NP) の皆様、施設の院長、看護部長、施設の医師、看護師、理学療法士の皆様、研究を行うまでの多くの準備や、当日には送迎から 1 日の行動の調整まで、そして、研究にとどまらない多くの経験の機会を与えてくださったこと、この研究にご協力くださったこと、心から深く感謝申し上げます。

本研究は、「慶應 SFC 学会研究助成金 (D) 研究調査・フィールドワーク」を受けて実施しました。重ねて、心から感謝申し上げます。

参考文献

- 1) AANP (American Association of Nurse Practitioner), All About NPs. <https://www.aanp.org/about/all-about-nps> (検索日: 2024 年 12 月 10 日)
- 2) 公益社団法人日本看護協会, ナース・プラクティショナー (仮称) と現行法で定める「看護師」の業について. https://www.nurse.or.jp/nursing/np_system/compare/index.html (検索日: 2024 年 12 月 10 日)
- 3) 厚生労働省医政局看護課看護サービス推進室, 看護師

- の特定行為研修の概要について. <https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/tohoku/000257221.pdf#page=22> (検索日: 2025 年 1 月 4 日)
- 4) 公益社団法人日本看護協会, 専門看護師. <https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/vision/cns/index.html> (検索日: 2024 年 12 月 10 日)